

愛は南から

愛南町の持つ魅力をご紹介しています。地域の情報など気軽にお寄せください。



中山以佐夫さん（緑甲）が高知県檮原町の沈下橋を描いた『山あいの沈下橋』が「第 39 回近美展」で内閣総理大臣賞受賞の荣誉に輝きました。

中山さんは平成 11 年 4 月から本格的に油絵を始め、「百年に一人の才能」と称された佐間田敏夫氏（東京都）に師事し、近代日本美術協会の役員でもある浅野美杉氏（八幡浜市）とも交流を深め、自らの画風を洗練していったそうです。

中山さんは自宅倉庫を改造したアトリエで、生業の建築業の傍ら画業に励まれ、現在は次回「近美展」に向けた大作を制作中です。

編集後記

先日、「ぎょしょく教育」の最前線ともいえる小学生を対象とした出前授業を取材しました。魚を見たり、触ったり。子どもたちは、目を輝かせ、生き生きとした表情で授業に取り組んでいました。

昨今、魚介類と肉類の摂取量が逆転し、魚離れが進んでいることが問題とされていますが、「ぎょしょく教育」で魚を楽しそうに調理し、おいしそうに食べる子どもたちを見ていると、魚離れに歯止めがかかることが確信できました。子どもの頃から楽しく魚を扱う機会が得られることで、大人になってからも魚を調理することに抵抗がなくなるのだと感じたからです。

30年前にも「ぎょしょく教育」があれば私の妻も魚をさばけたかもしれません。妻は「男の人が魚をさばけるのって素敵よね」と私をそそのかしますが、その手には乗るものかと、私はかたくなに拒んでいます。しかし、子どもたちと一緒に「ぎょしょく教育」を受けたことで今までの狭量な考えが変わり、「魚がさばけたらいいな」と感じるようになりました。もう一息で、「魚をさばいてみよう」と更なる進化を遂げるのですが、まだその境地には至っていません。

及び腰の私と違い、愛南町の子どもたちは、「ぎょしょく教育」により魚への関心が高まっています。保護者参加型の「ぎょしょく教育」があれば、ぜひ参加することをお勧めします。皆さん、魚を食べましょう。

愛南町の人口

平成 25 年 2 月 1 日現在

世帯数	10,821 戸
人口	24,464 人
男	11,451 人
女	13,013 人

■編集・発行

愛南町役場 総務課

〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2420番地

TEL(0895)72-1211 FAX(0895)72-1214

HP <http://www.town.ainan.ehime.jp/>

■印刷

明星印刷工業株式会社